

1. 所属連盟・名前： 高体連 ・ 山本 聡
2. 大会・研修会名： 平成 24 年度近畿 YOC (ヤング・オフィシャル・クリニック)
3. 日程および会場： 平成 24 年 8 月 13 日 (月) ~ 14 日 (火) グリーンアリーナ神戸
4. 講 師： 山崎氏、島田氏、嶋田氏、黒岡氏、伊藤氏、渡邊氏、早崎氏、  
那須氏、大野氏、開氏、
5. 研修会のテーマ： 若手審判の発掘・育成

6. 内容 (講義・討論・実技など項目別に、できるだけ詳細に)

**実技**

8/13 (月)

京都大 - 大阪大 相手審判：富永亮太氏 (兵) 講師：黒岡氏

[ プレゲームカンファレンスの主な内容 ]

- ・相手審判の位置を確認しながらリード、トレイルともに位置取りを工夫する
- ・スペースを捉えるためにシンプルに“動いてみる”
- ・TO、相手審判とのアイコンタクトやコミュニケーション
- ・ファーストコールへの意識

[ ゲーム後の講評と反省 ]

- ・もっと取り上げるべき現象が多いゲームであった (吹けていない！)
- ・ゲームが激しさを増し始めた第 3Q 後半以降の吹き方を第 1Q からしなければいけない
- ・アンスポの判断の早さはよかった (ハードファウル？オートマチック？)
- ・両チームのガードの手と身体の使い方をもっとシビアに判定できなければいけない
- ・ベンチの管理が甘い (「まあいいか」が判定にも表れてしまう)

8/14 (火)

京都教育大 - 大阪大外国語学部 相手審判：木村健太郎氏 (和) 講師：伊藤氏・早崎氏

[ プレゲームカンファレンスの主な内容 ]

- ・ベンチ、ユニホームの管理を協力して行う
- ・リードのコートに対する体の向きを工夫してみる
- ・リングの右側 (6 番エリアのローポスト周辺) まで動いてみる

[ ゲーム後の講評と反省 ]

- ・チャレンジしようとする姿勢と目的がはっきりと見て取れてよかった  
しかし、どちらもがボール中心の視野になっていた
- ・トレイルがミドルライン付近まで移動して 3 番エリアのプレーを捉えていてよい  
1 ゲーム通して行えるように
- ・ブロッキング or チャージングの判定
- ・正しいジェスチャーを心がける (時計を止める手、ビジブルカウント、2 点のカウント...etc)

7. 所感 (刺激を受けたこと・感想など)

自分なりの課題を持って臨んだ今回の近畿 YOC でしたが、クリアするためのたくさんのヒントを得られたような気がします。この二日間で劇的に成長できた部分はあまり多くなかったかもしれませんが、チャレンジすることの大切さや、チャレンジした結果見えてくるものがあるということを改めて実感できました。今回得ることのできたヒントから自分なりの答えを導き出すために、一つの試合、一つの判定、一つのプレーを大切にしていこうと思います。

近畿で活躍している同世代の審判員の皆さんに負けないように、これからも精進していきたいと思っております。この度の研修会に参加させていただき、本当にありがとうございました。